広報伊方町

発行人
愛媛県西宇和郡
伊方町
編集
伊方町総務課
印刷所
保内町南予民報社印刷部
電話保内局276番

ことしの予算

財政再建への再出発

削減の上に節減の決意

特集

三月定例議会は、三月十日に開かれ、二十一日豫算など全議案を原案どおり可決し閉会しました。

昭和三十五年度当初予算は、一般会計七千三六九万円（注一）、国民健康保険特別会計一千二四〇万円ときまりました。

前年度の当初予算に比べれば、一般会計で、一千九六六万円の増加、国保会計で、一四二万円の増加を見ております。

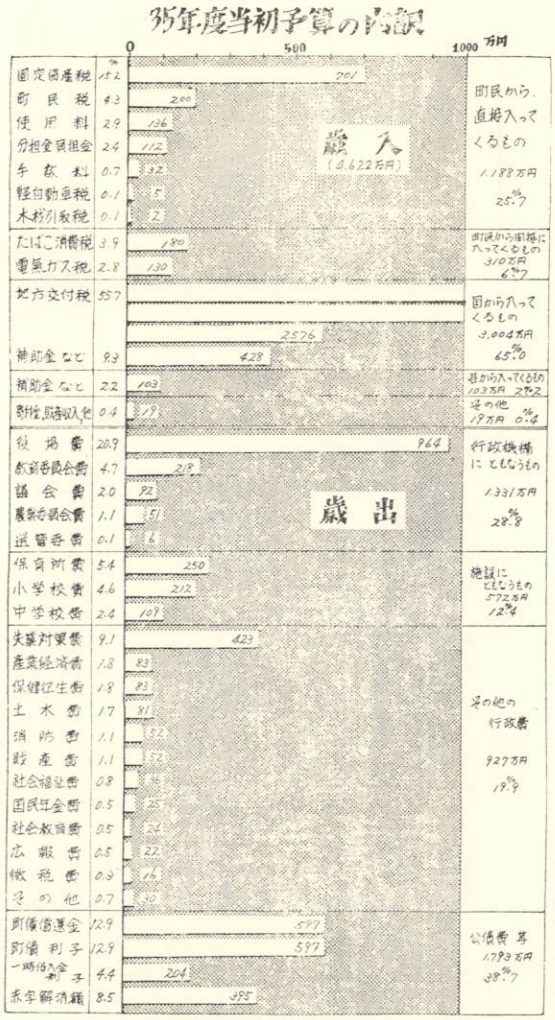
一般会計が、前年にくらべ、二千万円近くもふえているのは、繰上充用金（注二）の二千〇九二万円増、公債費の一八四万円増などに原因するものです。

一般会計では、総体的にかなり切りつめられた予算で、赤字解消の為に、削減の上に節減を重ねる決意で編成されています。

そこで三五年度町政の設計書ともいえる「ことしの予算」を特集しました。

注一　本文に、豫算総額を一般会計七千三六九万円とのべ、グラフに四千六一二万円と記している。本文は豫算書による豫算総額を記しグラフは、繰上充用金を除いて三五年度分についてのみ記した結果生じたくいちがいである。

注二　繰上充用金とは、前年度末の赤字を、今年度の歳出で補なうもので、ことしの当初豫算では、三十四年度決算の赤字見込額三千一四二万円が計上されています。



35年度予算の持つ意義

三十三年度以前に積み重ねられた、決算されていない赤字が一千二七四万円。これを正規のルートにのせ、決算にあらわれた赤字一千九六六万円とあわせ、三十三年度末実質赤字三千二四〇万円として、財政再建の再出発の為、再建計画変更に着手したのが、三十四年八月。

しかしこの再出発初年度は、年度途中からのことでもあり、赤字解消は、僅か一〇〇万円にとどまろうとしている。ことし三十五年度こそ実質的な財政再建への再出発の初年度であるといえる。

そしてまた、財政再建を図る一方において豫案の諸施策をいかにして遂行していくかーこれないソデをどのようにふって二刀流をさばいていくかし重要な課題を負わされた予算であるといえる。

人件費百万円減

役場費　道路工夫廃止　土木費

歳出予算から、款ごとに、その内容のあらましを、見ていきましょう。

議会費　九二万円（一六万円増）

前年よりふえた主なものは、議員報酬で、議長三万五千円、副議長二万五千円、議員一万二千円、（いずれも年額）になり、ようやく、自治庁がきめた標準行政費に近い数字になりました。しかしこれでもまだ郡内では最低です。

役場費　九六四万円（八二万円減）

職員給、職員手当を合せて、前年にくらべると九九万円減っています。去年行なった勧奨退職による職員の新陳代謝、あるいは、欠員不補充の措置によるものです。

印刷費、通信費、備品費など需要費は、前年度二〇万円減った上、ことしも再に一〇万円減らされています。消費的経費はできるだけ節減し、赤字を少しでも早く解消しようというものです。

町長交際費は、従来とかく当初予算では少なめにしておき、交付税の決定などのとき、追加していましたが、できるだけ追加をさけて「当初予算を年間予算に近づける」という方針に従い交際費は、前年の当初より一五万円ふやし、四五万円計上しています。

消防費　五二万円（増減なし）

団員手当が二〇〇円から、四〇〇円に引きあげられ、消防自動車の設置にともなう、運転手、消防車班員の手当が設けられ、あわせて七万六千円増消防車保険料が七千円増、その反面、消防ポンプ補助がなくなり五万円減、旅費需要費が三万四千円減となっています。

土木費　五〇四万円（一九万円）

今まで道路工夫二名をおいて、町道伊方宮内線、湊浦り方越線などの主要町道の常時補修にあたっていましたが、ことしから道路工夫を廃止し、町道の常時補修は、失業班員の手当が設けられ、あわせて七万六千円増消防車保険料が七千円増、その反面、消防ポンプ補助がなくなり五万円減、旅費需要費が三万四千円減となっています。

土木関係事業費は、補助金、起債など国や県に依存するものばかりなので、財源の見通しが確実になるまで、予算計上しないという方針についても、全然計上されていません。

国民年金費を新設

社会　産業

社会費　三二万円（六三万円増）

保育所費三四万円増、新たにきた保育士の給与二万円、公営住宅常時修繕費五万円、委託保育所が一〇万円、これらが前よりふえたものです。その他は、全般的に削減されております。

衛生費　八三万円（十六万円増）

合併条件の一つとして、年々行なってきた、環境衛生整備事業（一部落当り事業費十万円程度）はいよいよ終りに近づき、ことしの予算では、湊浦二、川永田二の二部落の分として七万五千円が計上されています。（前年は追加予算で計上）

産業費　一三四万円（六万円減）

前年よりふえたのは、干害対策費として二万円。災害融資の利子補給金として二三万円が主なもの減ったものでは、商産事務所の廃止にともなうもの二五万円、農委事務局職員の配置転換による人件費の減額、旅費電気費など消費的経費の節減など、農事委員会費七万円の減、その他勧業費の需要費が全般的に削減されております。

財産費　五三万円（六万円増）

前年当初よりふえた町有財産（二落の分として七万五千円が計上されています。（前年は追加予算で計上）

諸支出金　四七万円（一一三万円減）

前年度当初予算では、国保特別会計への繰出金が八二万円計上されていましたが（最終二〇万円に減額）今年は全廃されました。

親会計が赤字で苦しんでいるのに特別会計へ繰出しするのはもっての外と、地方課の指導にもとづいて除かれたものです。

国保会計への繰出金を全廃

選挙費　六万円（四〇万円減）

前年は、年度はじめに、町議選挙県議選挙があり、当初予算に計上していましたが、ことしは、選挙の予定がないので、経常費だけを計上しています。

統計費　一万円（増減なし）

ことしは、農林センサスの集計、事業所統計、商業統計、国勢調査など非常にたくさんの統計調査を行なう年ですが、当初予算では毎年おこなわれる「教育統計」「工業統計」だけの予算計上にとどめその他は追加予算で計上することにしています。

財政を圧迫する公債費

1,398万円

公債費　一三九八万円（一八四万円増）

伊方の財政を、極度に圧迫しているのがこの公債費なのです。

いうまでもなく、公債費は、過去において実施してきた、数々の事業によってできた借金払いなのですから、節減するとか、削減するとかいうわけにはいきません。

その義務的経費が前年より、一八四万円もふえたのですから、たまりません。そのしわよせは、行政費全般にわたって行なわれた訳です。

伊方の財政を苦しめている公債費が、よその町村とくらべて、どうなっているか。三十三年度決算の数字を別表にかかげましたので、見ていただきましょう。

比較したのは、県内の人口が同じくらいの町（八千二万、千八、二三三千人まで）として、越智菊間町、伯方町、東宇和郡城川町、南宇和郡御荘町の四カ町地理的に類似した町として郡内の三瓶、保内、瀬戸及び三崎の四カ町を、あげました。

歳出額の中に占める公債費の割合をみても、人口一人当りに公債費を換算してみても、伊方町が一番大きいことに気がつかれると思います。

このことは、ある一面からいえば過去において伊方町の財政視模に似合わない、大きくて数多くの仕事を行なってきたということになります。

類似町村の公債費の状況（33年度決算による）

町村名		歳出総額（繰上充用を除く）A	公債費 B	歳出総額に占める公債費の割合 B/A ×100	昭和30年国勢調査人口 C	1人当り公債費 B/C
		千円	千円	%	人	円
人口12,000～13,000の町	菊間町	49,747	2,508	5.0	12,587	199
	伯方町	65,742	4,352	6.6	12,262	355
	城川町	67,629	8,461	12.5	12,068	701
	御荘町	72,290	6,234	8.6	12,284	507
伊方町		78,568	12,684	16.1	12,711	998
郡内の町	三瓶町	114,183	8,501	7.4	16,582	513
	保内町	89,879	11,163	12.4	16,516	676
	瀬戸町	84,941	9,470	11.1	9,572	989
	三崎町	94,870	5,675	6.0	11,766	482

5月の税金

保険税

納税は

5月末日までに

学校事務職員は廃止

教委事務局を増員

教育費

五六四万円（一九七万円減）

教育費全体から見て、一九七万円と前年より大巾にへっています。しかしこれは、別表の予算には、公民館費に後援が二〇〇万円計上されていたからです。（年度途中で全額削除された。）

したがって実質的には、前年より少し増しているといえます。

学校費は、全面的に削減されていますが、学校ごとの内容をみなければ中には一部ふえた学校もあります。学校ごとの予算額は、別表に示すとおりです。

教育関係人件費については、中学校においていた事務職員一名を廃止（一名退職、一名転任未補）

社会教育の充実をはかるため、教委事務局を一名増員し、教育長以下四名にします。

学校教育、社会教育共に、担当効果をあげている。十六ミリ映画による視聴覚教育については、ひとしなみ遅れた地域をなくし、こんごの展開の基礎をつくりました。

学校別予算額

区分	学校名	当初予算額 35年度	当初予算額 34年度	当初予算額 比較増減	35年度 児童数	35年度 一人当り予算額	34年度 児童数	34年度 一人当り予算額
		千円	千円	千円	人	円	人	円
小学校	伊方	531	688	減 157	783	678	825	834
	九町	388	430	減 42	442	878	462	931
	二見	404	494	減 90	414	976	430	1,149
	水ケ浦	261	339	減 78	213	1,225	248	1,367
	瀬之浦	308	343	減 35	214	1,439	226	1,518
	有寿来	231	219	増 12	87	2,655	86	2,547
中学校	伊方	621	576	増 45	606	1,025	514	1,121
	町見	473	375	増 98	372	1,272	340	1,103
合計		3,217	3,464	減 247	3,131	1,027	3,131	1,106

（注） 学校関係人件費は含まれていない

交付税が半分以上

税収はわずか26％ 歳入

ことしの予算を前にわたって見てきましたが、こんどはこれらをまとめて、歳入を見ていきましょう。

町税は、一千二八万円で、前年より六〇万円の増これはすでに御承知のとおり、固定資産税の税率引き上げによるものが主なものです。歳入の大部分が町税であることが分かりますが、伊方の場合としては割合が高く、わずかに二六分四を占めるにすぎません。

その反面、少ない税収を補なうための国から交付される、地方交付税は五五分七と半分以上を占める状態です。交付税は、ことしの予算では、二千五七六万円を見込みました。前年度の実績が二千七九四万円ですから、この予算よりも増ることはないと見られています。

分担金負担金は、失対労働者負担金を一二万円計上、これは使用料手数料、は過大見積りにならないよう全般的に前年より減額して計上、三七万円減となっています。

事業費の約四分の一に当ります。

国庫、県支出金は、前年の実績あるいは、県の指導にもとづいて、確実と見込まれるもののみを計上しました。前年に対し国においては七五万円増、県においては七万円増となっております。

寄付金、財産収入、雑収入などは前年とほぼ同額を計上しました。

× × ×

こうして、確実な歳入、削減された歳出によって編成されたことしの予算は、赤字を三九五万円解消することになっています。

さらに伊方中学校危険校舎改築、前年からの継続事業である海浦岸壁築造などの事業が、追加計上される予定にもなっています。

町の日誌

3月10日　三月定例議会招集さる――予算を除く　公会の諸は銷所決定　一時借入れ限度額　議員報酬引きあげ　職員の夏期手当十分の一ケ月分増額など五議案を同日原案どおり可決し休会に入る。

3月18日　課長会議――三五年度予算執行について課長会議が開かれた。

3月21日　三月定例議会終る――十日に招集され　休会に入っていた　三月定例議会が再開され　印鑑条例　公民館条例　三四年最終追加更正予算など当日提案された五議案及び十日に上程されていた　三五年度当初予算をいずれも原案どおり可決し閉会した。

3月25日　区長会――水道の町税費　三五年度徴税などについて　協議するため区長会が開かれた。

3月26日　町職組定期総会開く――昨年四月結成された　伊方町職員組合の設立後初の総会が開かれ新役員を選出した。
◎執行委員長　松田　道
◎副執行委員長　林　鍛
◎書　記　長　渡辺　一幸

3月27日　伊青協総会開く――伊方町青年団協議会の第六回総会が伊方小学校で開かれ　次の役員を選出した
◎会　長　田所芳朗
◎副会長　上甲英次郎　山下明司　広瀬　京子　井田悦子
◎事務局長　田中　発

3月28日～30日　酒の品評会――西宇和地酒造業者組合主催の自醸酒品評会が開かれた出品点数二九二点　一位千鳥　泉信吉　二位春駒　兒谷成数　三位発展　渡辺文四郎

ことしの国保豫算

国保特別会計では、一般会計のように、歳出を削減したり、節減したりする余地はいきません。

ことし一年間で、どのくらい病気にかかるかその見込みをたてて歳出をきめ、国の補助金がどのくらい入る額を保険税に割り当てるという見込が計算し、不足する順序になります。歳出の八割を占める「療養給付費」の中には、町から直接医師に支払う「療養給付費」保険証が使えなかった時に町から被保険者に支払う「療養費」、医師からの請求が正当なものかどうかを審査する国保連合会に支払う「審査手数料」の三つが含まれています。この中で大部分を占めるのは、最初の療養給付費です。

そこで、ことしの療養給付費は、どのように計算されているか、を右下の算式によって見ていただきましょう。「一件当り金額」というのは、一件当り治療費の平均額「受診率」とは、一人の被保険者が平均して年間何件ぐらい医者にかかるかということです。算式の最後に二分の一があるのは、治療費の半額は、個人負担なので、予算に計上されるのは半分だけでよいからです。

つぎに、左の表を見ゆくださいます。保険税は、歳入の約半分です。それにさきなら、歳出の内容保険者にもどっていくのは、療養費から審査手数料を引いても、また八割以上を占めます。平均すれば、決して被保険者に相当のたい制度だとも言えます。

国保予算の内容

【歳　入】

	千円	%
保険税	6,400	51.6
手数料	1	0.0
国の補助金	5,998	48.4
計	12,399	

【歳　出】

	千円	%
役場費（事務費）	1,193	9.6
療養諸費	10,248	82.7
助産費	200	1.6
葬祭費	100	0.8
保健施設費	239	1.9
家族計画普及費	40	0.3
一時借入利子	80	0.6
納税奨励費	100	0.8
その他	199	1.6
計	12,399	

療養給付の算出基礎

1件当り金額×受診率×被保険者数

35年度予算	700円00銭	×280％00	×9,950人＝19,502千円の二分の一＝9,751千円
34年度見込	674円08	273％59	
33年度実績	674円92	223％25	
32年度実績	619円93	228％23	

はなしのたね

◇巡査の「おいおい」を改める

明治三十二年四月二十一日の新聞を見ると、大浦警視総監は巡査が一般人に乱暴な口をきくのをつもとがめて、なるべくていねいにするよう教えていたが、今度その言葉づかいを改めて、「おいし」を「もしもし」と呼びかけるようにきめたという記事がでている。今日の民主警察とは雲ていの差があるというものだが、世のお母さんたちが、なくとおまわりさんがくるよなどと子供をたしなめているのを見ると、たしなめられるのはお母さんだといえなくなる。

◇公立小学校のはじめ

明治二年五月二十一日が国ではじめて京都に上京第二十七番小学校という公立の小学校が開校した。今の柳池小学校である。京都ではその年のうちに小学校六十四中学校を三つ完成した。

文部省ができたのはこの二年あとの明治四年である。

全国を八大学区にわけ　それぞれの大学区を三十二中学区と三百十の小学区にわけ各区に二つずつ学校をおく計画をたてたのもそのときであった。

◇フロシキ（風呂敷）のおこり

足利時代または鎌倉に四角な布を敷いていた。北山に金閣寺を建てておられるきわめた足利義満は室町のやかたに大きな法隠蔽をつくり、きょうの時なお近習の大名を一しょにフロに入れた。大名たちはよく自分の衣服を取りちがえて困ったので義満は間違いのおこらぬようにあらかじめ、いいの大名のしるしもん（定紋）をつけたふくさを作ってもらいにした。大名たちはフロにはいるときのふくさを広げ、その上で衣服を脱いでつつんで置いてもし湯からあがった時そのふくさつつみをほどいて衣服を着た。ふくさにはちゃんと定紋がついているから間違える気づかいはない。こんにち便利なフロシキのおこりはかくして生まれたものである。

編集後記

ことしの予算を特集した理由のくわしと関係が無いようであるのが行政機関の事業であるという、町の様子をそのままでも知ってもらいたいのが編集者の気持である

おわび

三十五年三月二十日付本紙二面の電話開通の記事中、伊方局は昭和三十六年度以内三瓶と其に八幡浜局に合併し自動化されることにきまりました。とあるのは政府の予算による結果、「八幡浜局への合併は遠慮」と予定されていない。ということが正しい事実でした。ここに謹しんでおわび訂正をさせていただきます

お礼

町外で前活躍の次の方々から広報編集の費用に前寄付をいただきました。紙上から厚く御礼申しあげます

住所	氏名	金額
下関市	中浦林業	二千円
新潟市	中浦足利	一千円
福岡市	西本松芳	一千円
福岡市	中浦清家コマチ	一千円

人

昭和35年3月1日現在
世帯数 2,583
人口 12,703（男6,263 女6,440）

婚姻（二月届分）

出生（二月届分）

死亡（二月届分）